



第3回 『高等学校 新地理総合』第2部 第2章「地球的課題と国際協力」での地図帳活用

## SDGsの観点からとらえる 「地球的課題と国際協力」

### —人口分野の学習の進め方—

田園調布学園中等部・高等部 山田 智之 (やまだ・ともゆき)



『高等学校 新地理総合』  
第2部 第2章  
『標準高等地図』

#### ■SDGsにおいて、「世界の人口」を取り上げる意義

SDGsで掲げられている17の目標の中で、直接「人口」の語を用いて言及したものはないが、持続可能な社会を具体的に実現していくうえで、現在の世界の人口状況や、今後の推移、分布の特徴を理解しておくことは、重要な基礎となる。国連人口基金（UNFPA）が毎年発表している『世界人口白書 2023』で、世界の人口は2022年11月に80億人を上回り、2023年半ばの国別の推計値で、インドが14億2,860万人と、長年世界第1位にあった中国（14億2,570万人 ※ホンコンとマカオは含まれていない）を上回る統計が示された。人口の第3位から第5位は、アメリカ合衆国（3億4,000万人）、インドネシア（2億7,750万人）、パキスタン（2億4,050万人）となっている。上位5か国の構成は、東アジア地域1か国、東南アジア地域1か国、南アジア地域2か国、北アメリカ地域1か国であり、アジア地域の人口の多さが目を引く。世界人口は引き続き増加の傾向にあり、2037年ごろに90億人に達すると予測されている。『標準高等地図』（以下、地図帳）p.141～142には「世界と日本の人口問題」に関するさまざまな主題図が掲載されている。歴史の観点から現在の地球人口の規模を考える際、まず「B 増える世界の人口 3 人口爆発」を参照させたい。1700年以降、人口増加のペースが急激に上がっていったことが読み取れる。また、第二次世界大戦終了後はその傾向が顕著で、アジア、アフリカ、南北アメリカの増加が目立つ。これに補足して、「4 人口増加率」（図3）を用いることもできる。

#### ■地理的な面からとらえる世界の人口密度

80億人を超える人々は、世界に一様に分布しているわけではない。地図帳p.141「A かなたの世界の人口分布 1 世界の人口密度」（図1）を通して、自然環境との関連において、人口密度の高い地域と低い地域の理由を、生徒に考えさせる。人口密度が低い地域は、アフリカのサハラ砂漠やユーラシア大陸・北アメリカ大陸の北部などであ

り、それらの地域は乾燥や寒冷の度合いが厳しい。これらは学習した知識と結び付けやすいため、読み取りでは人口密度が低いほうから行うことを勧める。人口密度の高い地域は、中国の黄河・長江流域、インドのガンジス川流域といった、大河川流域の平野、温帯や熱帯地域に多く見られる点などを指摘できればよいが、そのほかにも人口密度が高く示されている地域があり、すべてを説明することは難しい。こちらは具体的に地域を決めて、考えさせたいほうがよいだろう。

#### ■人口の学習からSDGsに進む際の留意点

ここでは、人口が多い・少ないかが問題ではなく、地図帳p.141「2 おもな国の年齢別人口構成」（図2）を参照させ、バランスが重要だということを気付かせたい。先進国では少子化や高齢化、発展途上国では人口増加と経済状況の問題、急激な都市化といったことが、『高等学校 新地理総合』p.168～169には指摘されているが、各国で状況は異なる。インドと中国で比較すれば、一番多い年齢層は、インドのほうが低い年齢の世代だと分かる。生徒には各自が関心のあるSDGsの目標と、それについてどの地域で調べるかを決め、どの世代にとって、どのような取り組みが必要か、求められているかを意識させると、提示する結論がより具体的なものになると考えられる。



『高等学校 新地理総合』p.166「2 人や車であふれる通り」（ナイジェリア、ラゴス、2017年）

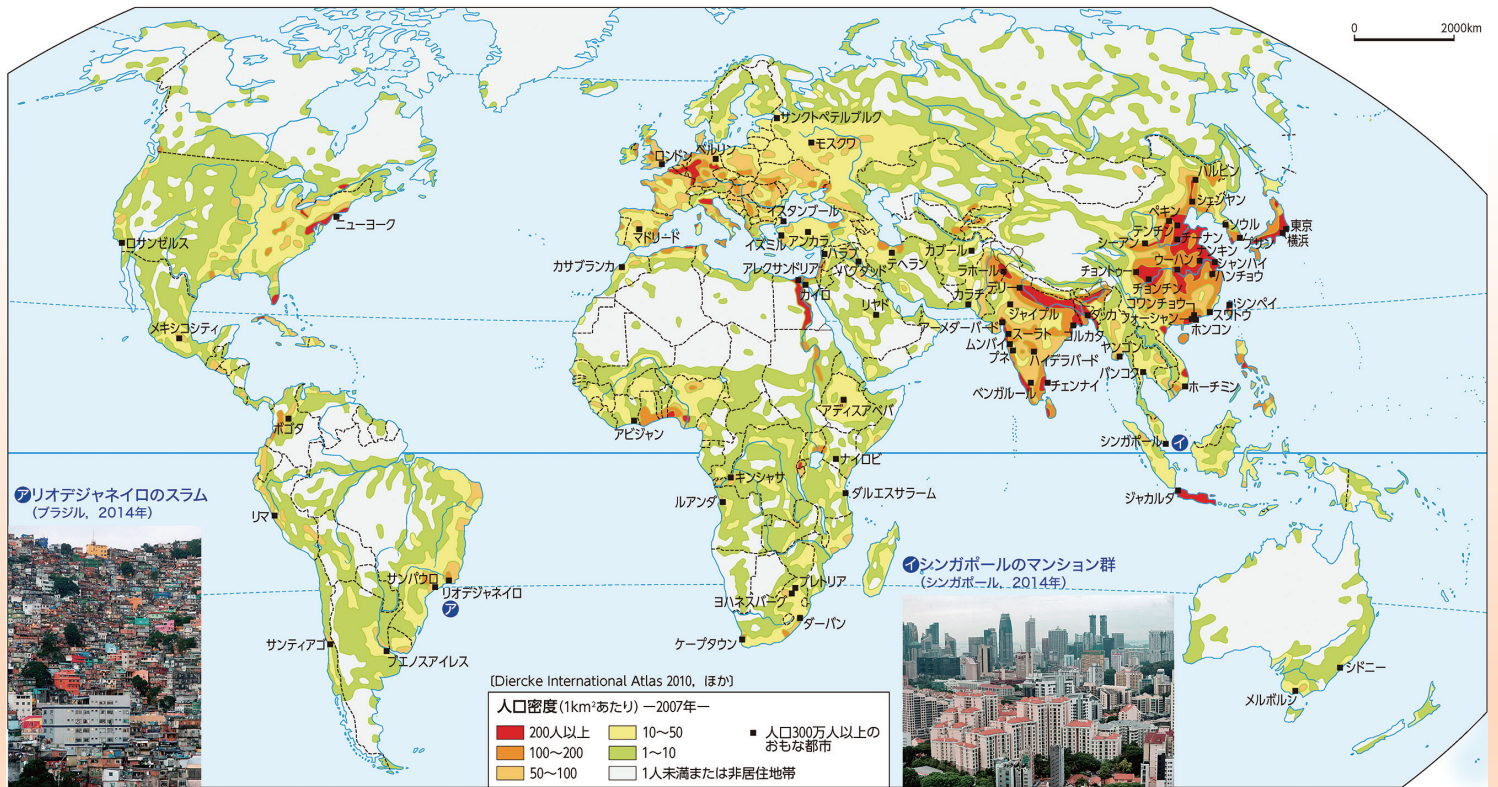


図1 『標準高等地図』p.141 『1 世界の人口密度』

### 授業ではこう使う！

図1 とケッペンの気候区分(地図帳 p.119 ~ 120) でB(乾燥帯)やE(寒帯)、D(亜寒帯)の地域で人口密度が低いことに着目させ、人が居住しない地域であるアネクメーネの特徴として押さえる。人口ピラミッドは、多産多死型から多産少死型、少産少死型へ移ることを踏まえ、各国の段階を考える。エチオピア・インドのグループ、アメリカ合衆国・イギリス・スウェーデンのグループ、日本で分けると違いがとらえやすい。中国は一人っ子政策の影響が見られる点に留意する。



人口密度が低いのは、砂漠や高い山脈・高原、極地に近い地域など、乾燥や寒さの厳しい地域です。



左の7つの国々を、富士山型、釣鐘型、つぼ型に分けて、整理します。

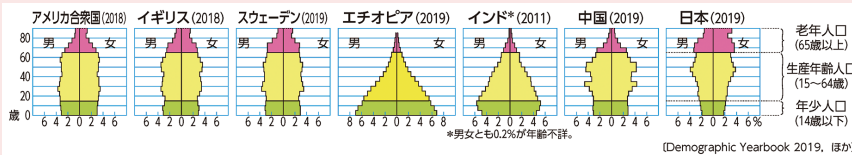


図2 『標準高等地図』p.141 『2 おもな国の年齢別人口構成』

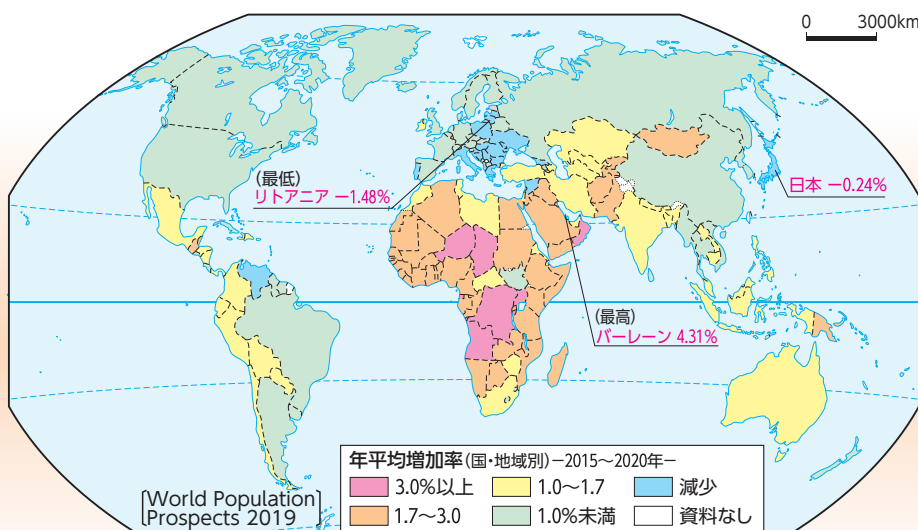


図3 『標準高等地図』p.141 『4 人口増加率』

### 授業ではこう使う！

増加率が高い地域(1.7%以上)と微増の地域(1.0~1.7%、1.0%未満)、減少地域の3つに分け、地域ごとに整理する。ユーラシア大陸は、ヨーロッパとアジアの各地域について確認する。世界人口全体は増加傾向にあるが、地域的な偏りに着目する。



人口増加率が高い地域は、アフリカ大陸のほかに、アジア地域(西アジア、南アジア、中央アジア、東南アジア)、中南米地域の国々です。

※すべて令和4(2022)年度以降版